

## 私と農業と岩手

山火 理

十年後に二十八歳になる私は、大学を卒業して六年経過しています。大学では農学部に入り、農業の勉強をしたいと思います。私が農業を学びたい理由は二つあります。

一つは、農業を営んでいる私の祖父母が年を取り、以前のようにたくさん収穫することができなくなり、それを見て自分にも何かできることや役に立つことはないかと思い、農業を学びたいと思ったからです。

もう一つは、最近日本では食料自給率の低さや、食の安全性が問題になっていますが、これらの問題を、農業の力を通して解決したいと思ったからです。また、安心して食べることができる野菜や果物を自分で育て、それを多くの人々に提供することにも魅力を感じました。

大学では特に、地球にやさしい方式で、安全で高品質な作物の生産や、気候変動に影響されない安定的作物生産を可能にする「次世代型農業」という、新しい農業の大切さや仕組みを勉強していきたいと思います。そして、将来はたくさんの人々に農業の大切さを伝える活動をしていきたいです。例えば、一般の人に田畑を貸して、農家の人々の大変さを知ってもらったり、収穫の楽しさを体験することにより、農業の素晴らしさや大切さを理解してもらえらると思うからです。

十年後の岩手は、農業や漁業などの第一次産業が現在よりさらに発展していると思います。これからの社会は、食料自給率が今よりもっと低下し、輸入食品への制限による食品の減少などで、さまざまな食の安全が求められていくと思います。そんな中で、第一次産業が豊かな岩手は全国の見本となり、リーダーシップを発揮して日本を食の豊かな国に導いていくような存在になっていると思います。

しかし、現状ではそれは無理だと思います。農業や漁業を仕事にする人の減少や高齢化が進んでいるからです。人口を増加させることは簡単なことではありませんが、町おこしをするような努力を積み重ね、岩手の魅力を多くの人にPRすることによって、必ず結果はついてくると思います。私自身も岩手のことをもっと知り、一人でも多くの人にその魅力を伝えることができると思います。

人口の増加以外にも大切なことは、第一次産業に就く人の収入の問題です。農業や漁業を仕事にしたいくても、安定した収入を得ることができず、仕事を諦めて、やめてしまう人が多いことを私は知りました。原油の高騰により、漁に出ることができない漁師や、野菜の原価の下落が原因で農業をやめる人たちのことをニュースや新聞で見ました。これらの状況を打開するためには、政府が積極的に動く必要があるし、私たち自身もこのような出来事を知っておかなければなりません。このままでは、魚や野菜が食べられなくなってしまう時が来てしまいます。

私たちの命の源となっている食への関心が薄れてきたことに私たち自身で危機を持ち、工業やサービス業だけでなく、第一次産業の大切さにも目を向けることが、これからの一番の課題になると思います。そして、十年後の岩手も、緑豊かな町でいつまでも暮らしていて誇りが持てるところであってほしいと私は思いました。